

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 藍住町藍住西小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒771-1231

徳島県板野郡藍住町富吉字豊吉55-1

E-mail ainishi@ma.pikara.ne.jp

Website

http://e-school.e-tokushima.or.jp/aizumi/es/aizuminishi/html/htdocs/index.php?page_id=0

幼児児童生徒数 男子 287 名 女子 234 名 合計 521 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「人間尊重の精神を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で心豊かな児童の育成」を学校の教育目標としている。地域住民の教育に対する関心は強く、児童の教育に熱心であり協力的である。その中で児童は、のびのびと活動的に学習に取り組んでいる。地域の伝統文化に親しむ活動を充実させるため、藍染め活動や人参栽培を行った。また、自校を愛する心情を養うため、挨拶運動や朝の清掃活動も行った。

① ボランティアに係る活動

(1) 朝の挨拶運動

・毎朝、高学年を中心に朝の挨拶運動をしている。

(2) 朝の清掃活動

・ボランティア委員会の児童を中心に毎朝職員玄関・来客用玄関前の清掃活動を行っている。

(3) キャップ・プルタブ集め

・リサイクルの一環として、キャップ・プルタブ集めを行っている。前年度は、年間通して約 60 kg 回収した。

②地域の特色に係る活動

1. 藍の栽培（4，5，6年生）

学校の畑で栽培している。春に藍の苗を畑に定植して、夏に刈り取る。乾燥させて藍師さんに薬（すくも）にしていただく。11月には、赤い藍の花が咲き乱れる。5年生がその花を刈り取る。種を取って3月に藍の種をまく。

2. 藍染め（全学年が体験する）

前年度に栽培された藍から作った薬（藍を乾燥させ発酵させたもの）で、5年生が藍建てをする。藍建ては、藍師さんをゲストティーチャーに招き、昔ながらの方法（薬を練って、灰汁や全粒粉を入れる）で行った。10日ほどで藍染めができるようになる。各学年の藍染めは、5年生が建てた藍を使う。（本校では藍の液のことを『藍ちゃん』と呼んでいる。

染めた作品は、夏期休業中に町役場に展示される。5年生の作品は、徳島県手工芸展にも出展される。

6年生は1月に藍建てをし、自分の卒業文集の表紙を染める。また、卒業式に向けて、5年生は6年生への藍のコサージュを制作する。6年生は、自分の親につけてもらうコサージュを制作する。

【6月】 5年生の藍建て

【7月】 5年生（筒描き）筒描きの作品で共同作品作り
4年生（ろうけつ染め）
3年生（絞り染め）
1, 2年生（たたき染め

)

【11月】 5年生（絞り染め） → 地域の施設にて藍染めをした。今年はランチョンマットを制作。

【1月】 6年生の藍建て

【1～3月】 5年生：藍について学習したことを新聞にまとめる。
6年生用のコサージュを作る。
6年生：卒業文集の表紙を染める。
保護者用のコサージュを作る。

3. にんじん作り（3年生）

藍住町の特産である春にんじんの栽培を農家の方に教えていただきながら行う。

【6月】 藍住町のにんじんについて調べる。

【10月】 種まき

【11月】 間引き

【3月】 収穫

4. 学校版 ISO の取り組み

年間を通して、電気や水を大切にすること、ごみを減らして分別するなどの活動に取り組んでいる。

藍の活動には『藍太くん』がいるように、ISOの活動では『エコ三銃士』がいる。これは、子どもたちが考えたキャラクターであり、手洗い場やごみ箱近くのポスターを貼って、自主的に活動できるようにしている。

子どもたちは、これからの活動を通して、藍住町に愛着や誇りを持つようになっていくと同時に、環境問題への意識を高めつつある。



(藍染め)



(プルタブ)



(にんじん栽培)



(藍の定植)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|---|--|---|-----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|--|
| |
|--|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校は、「人間尊重の精神を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で心豊かな児童の育成」を学校の教育目標としている。特別活動に位置づけられている委員会活動を通して、ボランティア委員会や環境・美化委員会が校内の清掃活動に取り組んでいる。また、社会科や総合的な学習の時間には、にんじん栽培や藍染めに取り組んでいる。地域の方々にも協力を頂き、盛んに活動が進められている。その際、地域の方々との事前打ち合わせと親密に行い、児童の実態に応じた指導の工夫を話し合っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、環境保全に係る活動、伝統ある文化の継承に係る活動は毎年実施。また、年間を通して行っているボランティア活動については、定期的に教員が活動を促すこともあるが、活動の殆んでは、反児童が自発的に活動に取り組んでいる。最近では自ら校門に立って朝の挨拶運動を行っている児童も増えてきた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

アンケートを実施して評価。より多くの児童が積極的にボランティア活動に取り組めるように、ボランティア活動の内容や活動の見直しを図りたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

当校のホームページにおいて活動を報告している。また、文章やメールを通じて藍染めに関する活動見学の案内をしている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

にんじん作りの専門農家の方、農業支援センターや役場の方。「藍の風」藍に関するボランティアサークル。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度の国内外のユネスコスクールとの交流はありません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

毎朝、挨拶運動を行っている。校門や正門に5, 6年生が立ち、意欲的に声をかけている。さわやかな挨拶によって子どもたちも挨拶をする子どもたちへと変わった。教員も意欲的に挨拶運動に取り組み、校内全体で継続的に取り組んでいる。

毎朝、環境・美化委員会を中心に清掃活動に取り組んでいる。職員玄関や来客用玄関、校門の美化に努めている。また、教室の美化に自主的に勤めている児童も見受けられる。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

「人間尊重の精神を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で心豊かな児童の育成」を目指す。藍染めとにんじん栽培を行い、地域の伝統文化に親しむ活動を行う。また、挨拶運動や清掃活動を通して、自校を愛する心情を養う。さらに、年間を通して、電気や水を大切にすること、ごみを減らして分別するなどの活動に取り組む。これからの活動を通して、藍住町に愛着や誇りを持つようになると同時に、環境問題への意識を高めていく。